

## 1 事業名 企画力・運営力アップセミナー

### 2 必要性

ボランティア活動に参加する青少年の活躍の機会を広げ、あらゆる活動の中でリーダーシップを発揮しながら活躍できる青少年を育成する事業は、社会からの要請があるところである。

本事業は国立青少年教育施設が有する機能を最大限に活かし、青少年にボランティア活動における企画・運営に関わる学習の機会を提供するものであり、主体的に社会に参画しようとする態度を養成するものである。また、平成 24 年度までは、「さんべ夢ステージ」の中に位置づけていたが、その他の事業においても、ボランティアによる企画・運営を行う事業があることを考慮し、基礎知識や技術を身につける場として、平成 25 年度より「さんべ夢ステージ」から独立させた。ボランティアが当施設の事業を企画・運営するための準備に必要な事業である。

### 3 趣 旨

主体的に社会に参画しようとしている青少年を対象に、事業の企画・運営に関する学びの場を提供することで、問題解決能力やコミュニケーション能力等の諸能力を身につけ、今後行うボランティア活動の企画・運営を円滑に実行できるようにするとともに、将来のリーダーとなるために必要な資質の向上を図る。

### 4 後 援

島根県教育委員会、島根大学、島根県立大学、松江工業高等専門学校

### 5 期 日

平成 25 年 6 月 7 日（金）～6 月 9 日（日）

### 6 参加者

(1) 募集対象・人数 ボランティア活動に興味があり企画・運営等の研修を通して知識・技能を深めたい青少年・20 名

(2) 参加人数 17 名

(3) 参加者分析 青少年 20 名の募集に対して、17 名の参加があった。その内訳は、下表のとおりである。参加者の本事業への参加のきっかけは、各大学で実施した説明会での話を聞いて興味をもったことや、「友人・知人に誘われて」参加した方も多かった。

所属	人数	合計
島根大学教育学部	14 名	17 名
島根大学生物資源学部	1 名	
島根県立大学短期大学部（出雲キャンパス）	2 名	

(4) 参加地域 島根県 17 名

### 7 講 師

NPO 法人学生人材バンク 代表理事 田中 玄洋 氏

## 8 参加経費 3,000 円

## 9 事業の内容

### (1) 事業の特色

本事業は、企画力・運営力、人間関係能力・コミュニケーション能力などのソフトスキルや野外炊飯の安全管理や指導法等のハードスキルなど、諸事業を実施する際に求められる基礎基本となる事項を学ぶ機会を提供するものである。また、国立青少年教育振興機構の法人ボランティア養成共通カリキュラムとして実施し、今後当施設でボランティア活動を希望する者に対して、法人ボランティア登録の機会を提供するものである。プログラム構成については、8月及び1月に実施する教育事業「小学生チャレンジキャンプ」や10月に実施する教育事業「さんべ祭」及び2月に実施する教育事業「さんべミニ冬まつり」の企画・運営や、その他の教育事業の企画・運営補助などの活動に繋がるよう工夫した。

### (2) プログラムデザインと企画のポイント

今回のプログラム構成のねらいとして、①企画・運営のための基礎知識や技術の習得、②具体的な活動プログラムに関する知識・技術の習得、③今後の活動の基本となるコミュニケーション・ボランティアネットワークの形成の3つを位置づけた。

①では、「企画するってどういうこと?」「やりたいことをカタチに!」をテーマに、企画・運営の際に必要な知識や技能等の理論を中心に学べるように、NPO 法人学生人材バンク代表理事の田中玄洋氏を講師に招き、講義・演習を行った。②では、①の講義・演習をもとに、実際に「ニュースポーツ」「野外炊飯活動」等の実習を行い、企画・運営をする際に必要な知識や技術を習得する学びの場を提供した。③は、お互いにコミュニケーションが深められるよう、固定したグループにせず、プログラムごとにグループを変え、話し合う場、協力する場を設定するように意識した。

最終日午後には、今後の当施設事業の企画・運営の参考となるように、また、モチベーションがさらに高まるように、「ボランティア活動の実際」ということで、平成24年度のボランティア活動の様子などを紹介した。

### (3) 広報のポイント

島根県内の大学が実施するボランティア活動等に関する説明会に出向き、事業への参加を促した。また、島根県内及び広島県内の大学・専門学校に開催要項を配付し、設置してもらった。さらに、今後のボランティア活動に計画的に参加できるように、当施設が募集する年間のボランティア活動を記載したチラシを作成し、配付した。

(4) 日程表

6 / 7 (金)	20:30 21:00		21:30		22:00 23:00	
		受付	オープニング 「心と心をつなぐアイスブレイク」	事業説明 「自分の実現したいことを社会に発信しよう」～ねらいの共有～	入浴	就寝
6 / 8 (土)	6:30 9:00	12:00 14:00		16:00 19:00	20:30 23:00	
	起床 つどい 朝食	講義・演習① 「企画するって どういうこと？」	昼食	講義・演習② 「やりたいことを カタチに！」	つどい 夕食	実習① 「ニュースポーツ」 体験を通して
6 / 9 (日)	6:30 9:00	13:30 14:00		15:00	16:00	
	起床 つどい 朝食	実習② 「野外炊飯活動」 体験を通して	休憩	講義③ 「ボランティア活動の実際」	「ふりかえり」 クイズ	解散

(5) 内容及び講師

① 「自分の実現したいことを社会に発信しよう」～ねらいの共有～

国立三瓶青少年交流の家 企画指導専門職 濱野 健一

今回の事業の3つのポイント、①企画・運営のための基礎知識や技術の習得、②具体的な活動プログラムに関する知識・技術の獲得、③今後の活動の基本となるコミュニケーション・ボランティアネットワークの形成などの説明を行い、ねらいの共有を図った。



心と心をつなぐアイスブレイク



～ねらいの共有～

②講義・演習①「企画するってどういうこと？」 NPO 法人学生人材バンク 代表理事 田中 玄洋 氏

前半は、学生人材バンクの活動の紹介から入り、その後、2人組や少人数グループになって、身近な話題から“話す”ことを中心に進める中で、「話し方のコツ」や「聞き方のコツ」、「メモのとり方」、「カンペの作り方」など、会話力を高めていくために必要な知識や技術を教わった。後半は、より企画・運営に関して具体的な講義になり、企画の進め方やリーダーとしての資質を教わった。



「最近気になっていること」



「企画とは？」



「企画の失敗はなぜ起こるのか？」

**③講義・演習②「やりたいことをカタチに！」** NPO 法人学生人材バンク 代表理事 田中 玄洋 氏

午後からは、実際にテーマを決めて、KJ法を用いて少人数グループで企画を考えた。午前中に学んだ企画の進め方の5つの視点①仕事、②時間、③ヒト、④モノ、⑤カネをもとに、その場所でどんな体験ができるのか、また、それをするのにどんなものが必要かなど、実行のための計画をグループごとに考え立案した。その後、プレゼンテーションを行い、課題や改善点を共有した。



KJ法「質より量！」



「この企画は完璧です!？」



「玄洋先生ありがとうございました！」

**④実習①「ニュースポーツ活動」～体験を通して～**

国立三瓶青少年交流の家 企画指導専門職 濱野 健一

事前準備や安全管理、参加者を思い浮かべながら企画・運営することの大切さなど、講義・演習①②で学んだことをふりかきながら、当施設で提供しているニュースポーツ活動プログラム「カロリーング」を4チームに分かれて対戦型で実施した。



「安全面、参加者への配慮は…」



「がんばるぞ〜！」



「ねらいをさだめてっ」と

**⑤実習②「野外炊飯活動」～体験を通して～**

国立三瓶青少年交流の家 企画指導専門職 濱野健一

やはりここでも企画・運営するにあたり、安全管理や環境問題を意識しながら、野外炊飯活動「カレー&ナン」作りを3つのグループに分かれて実施した。



「整理整頓を心がける！」



「ナンちゃってカレー！」



「いただきます！」

**⑥講義「ボランティア活動の実際」**

国立三瓶青少年交流の家 事業推進係 藤江 龍

当施設の実施する教育事業に関わるボランティア活動の実際を紹介した。また、国立青少年教育振興機構の法人ボランティア制度について、登録の流れや手続き、待遇等の説明を行った。続いて、今回のセミナーのふりかえりも行った。

## (6) 運営のポイント

入所時に一人ひとりが今回のセミナーのねらい等を画用紙に記入し、自己紹介に併せ提示することで、他の参加者の思いを共有できるようにした。また、参加者同士が打ち解け合えるようアイスブレイクも取り入れた。

事業全体を通して参加者同士の関わりを重視した。特に生活面や実習については、当施設のボランティア経験者にアドバイスや補助を依頼した。グループ編成の際は、できる限り他の大学や初対面の者同士が同一グループになるようにし、コミュニケーションが図れるよう、また、ネットワークが広げられるように配慮した。職員は参加者の安全管理、健康管理に努めた。

## (7) 安全管理のポイント

ニュースポーツ活動では事故やケガ、野外炊飯活動では刃物や火気の使用には十分に注意を払いながら指導した。さらに朝夕のつどい後や活動後に健康状態の確認を行った。

## (8) アンケートの満足度・主な記述

満足度（参加者 17 名中） 「満足」 17 名（100%）

- ・ 講義で学ぶこと、活動で学ぶことで多面的に学べた。
- ・ 今後の企画や運営のためになった。
- ・ これから企画することがたくさんあると思うので、今回学んだことを実行したい。
- ・ 学生に適したプログラムだった。
- ・ 講義では自分たちで考えたり、話し合ったりする場面が多く用意されていてよかった。
- ・ どの活動もとても有意義なものだったので、またここに来て様々な活動をしたいと思った。
- ・ 先輩方の周りへの気配りの素晴らしさを自分もしていきたいと思った。
- ・ 初めて「企画・運営」そのものを学ぶことができて、次に活かせるようなものをたくさん手に入れた気がする。
- ・ 活動の間に数回入る職員さん方の説明が、このセミナーの意義にとっても合っていて、ためになった。

## 10 成果と今後の課題

<成果>

- 参加者に実施したアンケートによると、「とても勉強になった」や「今後の企画や運営に活かしていきたい」などの前向きな意見が数多くあった。
- 今回の事業は、企画すること・運営することについてのイメージをもたせ、今後の当施設の事業やボランティア活動での企画・運営について考えるきっかけを提供できた。
- 講師と事前にこの事業の趣旨、講義・演習内容等連絡を取り合ったことで、参加者に充実した有意義な学びを提供できた。
- 参加者のこの事業に対する満足度は、全員が「満足」と 100%、また、活動プログラムの実習でも「勉強になった」「気をつけることが分かった」という声が多く聞かれた。特に実習においては、当施設でのボランティア活動における企画・運営に、より役立つような内容を今後も検討していきたい。
- キャンセルはあったものの、募集予定通りの人数が集まり、各大学での説明会など広報が有効に働いた。

- 今回は島根大学教育学部の学生の他に、教育学部以外の学生の参加もあり、「企画・運営」に関する知識や技術の習得に高い意欲をもっている学生もいることが分かった。
- 島根大学からは15名の参加、島根県立大学からは、出雲キャンパス2名のみの参加ではあったが、松江キャンパスからの問い合わせもあり、平成24年度に引き続き島根大学や島根県立大学と連携しながら活動に参画してもらえることが期待できる。
- 参加者に、ボランティアとして当施設の事業の企画・運営に携わったことのある学生が2名いたこともあり、実習では指導の補助を依頼することができた。適切なアドバイスや率先した行動で、初めての参加者に対して手本となり、スムーズな運営となった。

#### <課題>

- 法人ボランティア登録のために必要な法人ボランティア養成カリキュラムのうち、「青少年教育」の単位は、5月に実施した「ボランティア活動入門セミナー」と、今回の事業でしか取得することができない。また、当施設の様々な事業でのボランティア活動における企画・運営についての知識、技術の習得をこの事業で担うものとして、平成25年度より教育事業「さんべ夢ステージ」から独立させたことを考えると、この事業の重要性や必要性をしっかりと広報していく必要がある。
- 今回の事業は、満足度は高かったが、ほとんど初めての参加者に対して、事業内容（プログラムはどうであったのか）検討していく必要がある。
- すでに法人ボランティア登録をしている学生を対象としたスキルアップの事業として位置づけられないか検討していく必要がある。
- 本事業へは、県内の2大学4キャンパスうち、2大学2キャンパスからの参加があった。平成26年度以降もこれに加えて、各専門学校などへも広報をすることで、青少年にボランティア活動の促進を図っていきたい。
- 複数の大学（キャンパス）の学生が法人ボランティア登録をしている状況に対して、当施設職員が仲介役となり、ボランティア同士のネットワークを整備する必要がある。

## 11 普及計画・普及実績

ホームページ上に要項や事業の様子などを掲載することで事業内容を社会に広く周知することができた。

(担当 濱野 健一)